

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会  
第 58 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2021 年 4 月 22 日 (木) 9:30~11:30
2. 場 所 Web 開催 (Webex)
3. 出席者 (敬称略)  
(出席委員) 鈴木 (主査), 渡邊 (副主査), 中川 (幹事), 大木, 望月, 矢野, 新井,  
加藤, 右田, 稲垣, 門間, 古谷, 上山, 吉成, 山上, 遊佐, 一森, 松藤,  
辻 (19 名)  
(欠席委員) 橋高 (1 名)  
(常時参加者) 山崎, 長谷川, 赤間, 三村 (上野代理), 牟田, 中原, 中村, 澁谷,  
伊藤  
(傍聴者) 櫛崎
4. 配布資料  
P14SC-58-1 第57回PLM分科会議事録案  
P14SC-58-2-1 PLM実施基準2020の講習会について  
P14SC-58-2-2 PLM実施基準2020英訳の作成  
P14SC-58-3-1 PLM実施基準202X年版 (追補1案) の確認依頼案  
P14SC-58-3-2 運転初期からの経年劣化管理改定案  
P14SC-58-4 長期運転体系検討タスクの報告書案  
P14SC-58-5 PLM実施基準改定スケジュール  
P14SC-58-6 米国SLRに関する技術情報

5. 議事

会議に先立ち、開始時点での出席委員は 18 名で定足数を満足している旨確認した。

(1) 前回議事録確認 (P14SC-58-1)

第 57 回 PLM 分科会議事録案を確認して、承認された。

標準委員会での PLM 実施基準に関する意見の共有に関して、前回分科会後に標準委員会の議事録 (ドラフト版) を送付したが、直近の標準委員会及びシステム安全専門部会の議事録 (ドラフト版) を分科会資料に加え、共有することとなった。また、倫理教育のまとめを次回分科会で紹介することとなった。

(2) PLM実施基準2020の講習会について (P14SC58-2-1)

現在発行準備中のPLM実施基準2020(3月標準委員会で制定)に関して、前回PLM実施基準2015の時と同様に発行後に講習会を実施予定である旨が説明された。次回分科会以降、講習会実施に向けた準備を進めていくこととなった。

### (3) PLM実施基準2020英訳の作成 (P14SC58-2-2)

PLM実施基準2020英訳の作成について、英訳の意義と進め方が説明され、英訳の要否を議論した。

経年劣化メカニズムまとめ表の英訳の方法について質問があり、2008年版は経年劣化メカニズムまとめ表のすべてを、2015年版はリストと本文1ページ（国外で議論ができる最低限の分量）のみを英訳したことから、2020年版も2015年版を踏襲して一部のみ英訳する予定である旨が説明された。また、英訳の活用先について質問があり、過去の英訳版が国際会議等で紹介された例（PLiM2017及びICMST）があることを確認した。2020年版に関しては、延期されていたPLiMが2022年5月に日本で開催予定であることから、本会議で発表したらどうかとの意見があった。PLiMでの発表も見据えて、PLM実施基準2020の英訳を実施することとなり、会議までに少なくともドラフト版は完成見込みである旨が説明された。

### (4) PLM実施基準202X年版（追補1案）について (P14SC-58-3-1,2)

経年劣化メカニズムまとめ表改定確認の進捗状況の報告と、運転初期からの経年劣化管理の改定案の説明がされた。

PLM実施基準202X年版（追補1案）は次回分科会にて本報告案を審議し、最短で2022年6月に制定予定である旨が説明された。

運転初期からの経年劣化管理で、まとめ表の耐震安全性評価の情報を活用して、耐震安全性が維持できるよう管理することを規定する改定提案があった。内容を各自確認の上、意見等あれば事務局まで連絡することとなった。問題がなければ追補1に含め、次回分科会で審議予定のシステム安全専門部会本報告案に反映することとなった。改定により運転初期からの経年劣化管理の運用がどう変わるのか質問があり、運用が変わることはなく、高経年化技術評価と運転初期からの経年劣化管理が今以上に明確になり、JEAC4209との繋がりを明確化できるとの考えが示された。

### (5) 長期運転体系検討タスクの状況 (P14SC-58-4)

長期運転体系検討タスクの状況について説明され、2021年3月の標準委員会で最終報告予定であったが、2月のシステム安全専門部会にてさらなる議論が必要とのことで3ヵ月延長され、次回5/6の専門部会で最終レポート案を審議して、6/2の標準委員会へ報告する予定である旨が説明された。

長期運転体系検討タスクの報告書案の提言の中に、「長期運転において参照できる安全の目標の検討も必要」とあるが、PLM分科会だけでは達成は難しく、規制の協力が必要であるとの意見があった。また、報告書内に記載がある「気づき事項」についてPLM分科会として対応が必要となるか質問があり、網羅的に抽出したわけではなく、また、すぐに対応が必要というわけでもない、「今後検討が必要では」と気づいた事項を挙げていると説明された。

長期運転体系検討タスクの報告書案に関して、特に確認期限は設けず、意見等があ

れば随時事務局まで連絡することとなった。

(6) PLM実施基準改定スケジュール (P14SC-58-5)

2025年度までのPLM実施基準改定のスケジュールが報告された。これまで通りIGALL等の最新知見をフォローしつつ、毎年追補を作成し、2024年頃から次回の本格改定の議論を開始する旨が説明された。

(7) 米国SLRに関する技術情報 (P14SC-58-6)

最新の米国SLRの動向について、澁谷常時参加者より報告があった。Peach Bottom 2/3号及び2020年9月～2021年1月のSLR動向が紹介され、特にPLM実施基準に反映が必要となる事項がないことを確認した。

6. その他

次回分科会は2021年7月にWebにて実施することとなり、後日日程調整を行うこととなった。

以 上